

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03556

研究課題名(和文)「ポスト代表制」時代の民主主義 新たなるコンステレーションの模索

研究課題名(英文) Democracy in the "Post-Representative" Era: The Search for a New Constellation

研究代表者

山崎 望 (Yamazaki, Nozomu)

駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：90459016

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：20世紀において、ファシズムと共産主義の挑戦を退けたナショナルな代表制民主主義の危機について多角的な観点から分析を行った。政治理論に加えて、国際政治、政治史、政治思想史、比較政治学の知見を応用し、現代の代表制民衆主義が直面する課題を検討した。とりわけポピュリズムや直接行動的な社会運動に象徴される、国内政治における強い敵対性がもたらす影響と、グローバル化市場などによる代表制民主主義の形骸化の現状を明らかにした。それをふまえて、いかなる代替構想が可能か、について政治思想史と政治理論の知見から検討を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義として、今日の民主主義が直面する課題を比較政治や国際政治という経験的なアプローチのみならず、政治思想や政治思想史の知見をふまえることで、歴史的/思想的な観点から把握し直すことが可能になった。成果として公刊された『民主主義に取って未来はあるのか?』においては、アプローチにおいて専門分化の進展する多様な民主主義論が共有する地平を示すという貢献を行った。また民主主義の危機と代替構想に取り組むことで、自由民主主義諸国で代表制が形骸化すると共にポピュリズムが台頭し、国際政治の次元では権威主義国や宗教過激派勢力との対立が先鋭化する現状を打開する知的基盤の構築に貢献した。

研究成果の概要(英文)：The crisis of national representative democracy in the 20th century, which has repelled the challenges of fascism and communism, was analyzed from multiple perspectives. In addition to political theory, we applied knowledge of international politics, political history, political thought, and comparative politics to examine the challenges facing representative democracy today.

In particular, we clarified the impact of strong hostility in domestic politics, like populism and direct-action social movements, and the current weakening of representative democracy due to globalized markets and other factors.

In light of this, we examined what alternative concepts are possible from the perspective of political theory.

研究分野：Political Theory

キーワード：民主主義 代表制 直接民主主義 正統性 熟議民主主義 闘技民主主義 ポストデモクラシー ポピュリズム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の状況では、ナショナルな代表制民主主義をめぐって、一方では実質的な寡頭制支配へと変容が進展し、民衆が十分に代表されない「ポストデモクラシー」状況ともいえるべき統治となっており、他方では、既存の政党政治の代表の在り方に反発し、民衆による実質的な支配を求める様々な社会運動やポピュリズムが噴出していった。こうした状況は二つの方向性から、ナショナルな代表制民主主義を形骸化させ、その正統性を棄損する可能性を持つものであり、この意味においてナショナルな代表制民主主義が自明視できない状況、すなわち「ポスト代表制」時代に民主主義がさしかかっている、という歴史的位相であった。

## 2. 研究の目的

研究の目的は、第一に「ポスト代表制」状況をもたらす変化について分析することであり、第二にそれに代替する民主主義の可能性を探ることである。第一については、こうした変化を二つに類型化し、民衆が十分に代表されない「ポストデモクラシー」状況を作りだす変化として、グローバル化の進展と新自由主義の進化の動態について明確化することである。これを通じて寡頭制支配のシステムの生成の過程を分析することが可能になる。それは同時に「代表」の機能がいかに停止していくか、について分析することになる。

第二の目的は、ナショナルな代表制民主主義に代替する新たな統治の在り方について、その可能性を模索することである。具体的には(1)市民が自発的に形成する結社(アソシエーション)のネットワークから成り立つ市民社会を基礎として、熟議民主主義(deliberative democracy)の過程が形成されている点に注目し、その実態と規範的な観点からの正当化可能性について考察することである。(2)また緊縮財政や格差拡大に反対して広場などを占拠するオキュパイ運動などに象徴される社会運動や、欧米諸国を中心に規制政党や国際機関をエスタブリッシュメントとして批判し、移民や性的少数者を道徳的に腐敗した「よそ者」として批判するポピュリズムに焦点をあて、その中に民主主義の契機が存在しているのか、またその正当化の可能性について検討することである。

## 3. 研究の方法

研究の方法として、第一の目的、すなわち代表制民主主義の形骸化により、寡頭制支配へと移行している動態を分析するため、グローバル化と新自由主義の変化について分析した。主に国際政治学や社会学の知見を元に、各国における変化の類似性と異質性について検討した。また寡頭制支配における正統性に着目し、政治思想史や政治史で蓄積されてきた寡頭制支配をめぐる知見との比較を行うなど歴史的な射程を長期化することにより、現代の民主主義に形骸化の位相を明らかにしていく手法も採用した。

第二の目的を達成するために、(1)熟議民主主義の思想と実践について、ミクロなレベル(家庭や学校、地域)からマクロなレベル(国民レベルや国境を越えるレベル)での対話の過程の分析と、ミニパブリックスなど制度化されたものから、制度化されていない実践の分析をクロスして検討する手法を採用した。また個々の熟議の場の相互連関から形成される「熟議システム」を通じて正統性を調達する点に着目する熟議システムという観点から考察することで、熟議民主主義の新たな展開を分析した。

(2)直接民主主義としての側面を持つオキュパイ運動や、ポピュリズムについては、比較政治や政治史、社会学の知見を援用しながら、民主主義との連関について考察する手法を採用した。これらの先行研究は貴重な知見を蓄積している一方で、専門分化の進展により相互参照がされない事例もあり、領域横断的な手法を用いることになった。オキュパイ運動については、世界各地における様々な経験的研究が蓄積されていることもあり、それらを比較することが可能であったが、同時に各地における文脈の相違も大きく、より普遍性をもつ抽象的な理論へと展開する困難性があった。ポピュリズム研究も同様に、世界各国における多様な事例があり、また歴史的な観点を導入すると文脈も相違も大きく、民主主義に与える影響を一義的に指摘することは困難であった。そのため、研究の方法として、近年着目を集めている権威主義体制を分析する政治体制論(競争的権威主義論やハイブリッドレジーム論など)やイリベラルデモクラシー論(非自由主義型民主主義論)を援用することで、現代のポピュリズムの特徴を抽出することに力を傾注した。

## 4. 研究成果

研究目的の第一である、新自由主義とグローバル化の進展に伴う、ナショナルな代表制民主主義の形骸化の過程についての分析を精緻化することに成功した。さらに寡頭制支配が一国の範囲にとどまらないトランスナショナルなガバナンスの形態をとる事や、一見すると公的な政治体制の内部にありながらも新自由主義の論理が浸透した統治がなされているなど、寡頭制支配の深化の事例を明らかにすることもできた。寡頭制支配をめぐっても、その正統性をどこに求め

るのか、という議論が必ずしも明確なものではない点について今後の研究テーマとして明確化することができた。第二も研究目的である民主主義の新たな配置については、当初想定していた代表制民主主義と直接民主主義、熟議システムとポピュリズムが常に緊張関係に置かれるとは限らず、相互作用して複数の正統性を調達し合うコンステレーションを形成し得ることを明らかにできた。

またこれらの成果を明らかにできたと同時に、ウクライナ戦争の勃発や米中対立の先鋭化に伴い、「ポスト代表制」時代の民主主義の在り方が、安全保障との関係で左右される事態が前景化したこともあり、同時代的な変化をふまえた、さらなる研究の必要性が明らかになっている、と考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 山崎望	4. 巻 370
2. 論文標題 「BLM運動と右派運動に見る危機の時代の『民主的衝動』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『Journalism』	6. 最初と最後の頁 34 - 39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本圭	4. 巻 76（5）
2. 論文標題 「嫉妬が大好きなあなたたちへ」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『群像』	6. 最初と最後の頁 351 - 360
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本圭	4. 巻 50（1）
2. 論文標題 「ヘルムート・シェック『嫉妬』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 212 - 218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山本圭	4. 巻 2020-11
2. 論文標題 「指導と民主主義－民主的リーダーシップをもとめて」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『年報政治学』	6. 最初と最後の頁 82 - 99
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 48
2. 論文標題 「「良き統治」と「良き指導」」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『現代思想2020年9月臨時増刊号 総特集 = コロナ時代を生きるための60冊』	6. 最初と最後の頁 193 - 197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 2
2. 論文標題 「民主主義の自己修復的性質についてーお祭りデモクラシーと語学学校デモクラシー」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『対抗言論』	6. 最初と最後の頁 332 - 339
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎望	4. 巻
2. 論文標題 「『成熟社会論』から『ケアの倫理とラディカルデモクラシーの節合』へ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 年報政治学	6. 最初と最後の頁 13 - 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎望	4. 巻 43
2. 論文標題 書評「大竹弘二『公開性の根源 秘密政治の系譜学』」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会思想史研究	6. 最初と最後の頁 174 - 177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 928
2. 論文標題 批判なき時代の民主主義 なぜアンタゴニズムが問題なのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 102 - 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 47 (6)
2. 論文標題 ポピュリズム 左派ポピュリズムへの走書き	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 94 - 99
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋良輔	4. 巻 4
2. 論文標題 時間の政治社会学 近代的クロックタイムから収縮/断片化した時間へ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 青山地球社会共生論集	6. 最初と最後の頁 25 - 55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山崎望	4. 巻 194
2. 論文標題 二一世紀に自由民主主義体制は生き残れるのか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 14 - 28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 49 - 3
2. 論文標題 とりあえず連帯すること：ジュディス・パトラーの民主主義論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『現代思想』	6. 最初と最後の頁 217 - 224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 1133
2. 論文標題 ラディカル・デモクラシーと精神分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『思想』	6. 最初と最後の頁 7 - 22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 23
2. 論文標題 New Reflections on Post-Marxism of Our Time	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『唯物論研究年誌』	6. 最初と最後の頁 76-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋良輔	4. 巻 18
2. 論文標題 専制政治の国際政治学：トランプ、プーチン、習近平、なぜ今、世界に専制的指導者が数多く生まれているのか？	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 NEWS SOKEN	6. 最初と最後の頁 8 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋良輔	4. 巻 2
2. 論文標題 アドボカシーの形態学：国際協力NGOと多元化する民主主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 青山地球社会共生論集	6. 最初と最後の頁 41 - 89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 45
2. 論文標題 傍流の位置から ポスト・マルクス主義のマルクス	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 270 - 277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本圭	4. 巻 4
2. 論文標題 嫉妬・正義・民主主義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 NYXs	6. 最初と最後の頁 250 - 261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 3件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 「自由民主主義の危機とアナーキズムの潜勢力」
3. 学会等名 日本学会議（招待講演）
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 山本圭
2. 発表標題 「指導者とデモスーンティズンシップからフォローシップへ」
3. 学会等名 政治思想学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kei Yamamoto
2. 発表標題 “ Envy, Democracy and Communism ”
3. 学会等名 Global Marxism Online Talk Second Round（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 グローバル化 / ポストグローバル化と民主主義の位相
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 分断社会・自己責任・民主主義
3. 学会等名 生活経済研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 ケアの倫理論とラディカルデモクラシー論の可能性 新自由主義と権威主義の時代に
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kei Yamamoto
2. 発表標題 Envy and Democracy Fascism? Populism? Democracy?
3. 学会等名 Critical Theories in a Global Context (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kei Yamamoto
2. 発表標題 Populism and Pluralism, Revisited
3. 学会等名 International Political Science Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kei Yamamoto
2. 発表標題 New Reflections on Post-Marxism of Our Time
3. 学会等名 The First International Young Scholars Forum of Marxism (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本圭
2. 発表標題 なぜ民主主義論は精神分析を必要とするのか？ 欠如・対象a・享樂
3. 学会等名 社会思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山本圭
2. 発表標題 指定討論
3. 学会等名 教育思想史学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎望
2. 発表標題 自由民主主義対権威主義？ - オルタナティブなき未来に抗して
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計15件

1. 著者名 山崎望・高橋良輔（共編）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 311
3. 書名 『時政学への挑戦 政治研究の時間論的転回ー』	

1. 著者名 山本圭	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央公論社	5. 総ページ数 247
3. 書名 『現代民主主義—指導者論から熟議、ポピュリズムまで』	

1. 著者名 野口雅弘, 山本圭, 高山裕二(編)	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 216
3. 書名 『よくわかる政治思想』	

1. 著者名 山本圭	4. 発行年 2020年
2. 出版社 共和国	5. 総ページ数 277
3. 書名 アンタゴニズム ;ポピュリズム 以後 の民主主義	

1. 著者名 山本圭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 281
3. 書名 田畑真一・玉手慎太郎・山本圭『政治において正しいとはどういうことか』	

1. 著者名 山本圭	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 270
3. 書名 『日常生活のために マッシー＝ラクラウ論争再訪』田村哲樹編 『日常生活と政治 国家中心的政治像の再検討』	

1. 著者名 藤原敦賀・真鍋一史・高橋良輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 272
3. 書名 地球社会共生のためのシャローム	

1. 著者名 高橋良輔・山崎望（分担執筆） 杉田敦（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 228
3. 書名 デモクラシーとセキュリティ グローバル化時代の政治を問い直す	

1. 著者名 松本卓也・山本圭	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 272
3. 書名 つながりの現代思想：社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析	

1. 著者名 大賀哲・仁平典宏・山本圭（共編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 236
3. 書名 共生社会の再構築 デモクラシーと境界線の再定位	

1. 著者名 高橋良輔（分担執筆） 葛谷彩・芝崎厚士（編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 国際政治学は終わったのか：日本からの応答	

1. 著者名 田村哲樹・乙部延剛・松元雅和・山崎望	4. 発行年 2017年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 242
3. 書名 ここから始める政治理論	

1. 著者名 ヤニス・スタヴラカキス（山本圭・松本卓也訳）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 464
3. 書名 ラカニアンレフト ラカン派精神分析と政治理論	

1. 著者名 山崎望	4. 発行年 2023年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 306
3. 書名 『民主主義に未来はあるのか?』	

1. 著者名 山本圭	4. 発行年 2022年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 306
3. 書名 「アゴニズムを制度化する - 熟議と闘技論争の第二ラウンドのために」山崎望編『民主主義に未来はあるのか?』所収	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山本 圭  (Yamamoto Kei)  (90720798)	立命館大学・法学部・准教授   (34315)	
研究分担者	高橋 良輔  (Takahashi Ryouzuke)  (70457456)	青山学院大学・地球社会共生学部・教授   (32601)	2021年3月逝去。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------